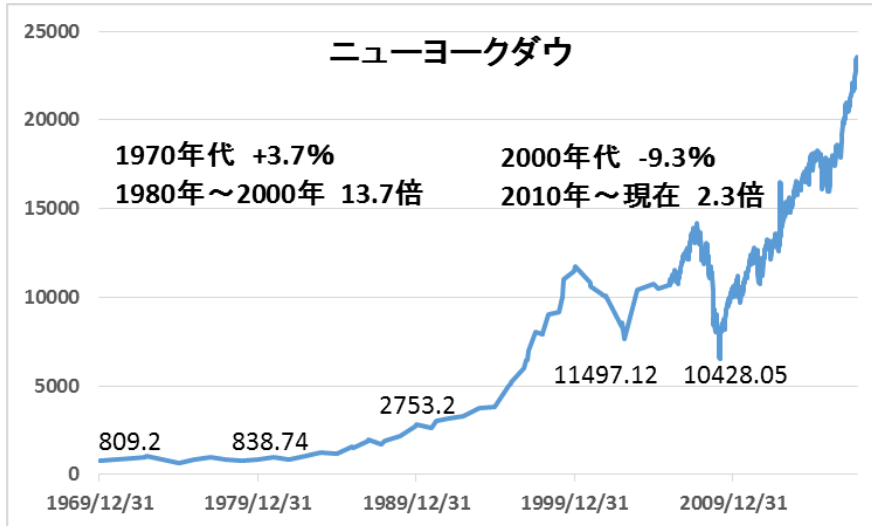


ATTENTION

米国株が上がる幅は予想以上に大きい



米国株もさすがにここまで上がってくると、上がりすぎではという見方が多くなってきます。そろそろ警戒水域と言うわけで、一部利食いしたり、現金化したりして様子を見たほうがいいのか、さらにいまは高いから買うのは見送りという声がかかるようになります。しかしながら、過去を見ると、風景は大分変わってきます。1980年~2000年の20年では、実にニューヨークダウは13.7倍になっています。そして、その前の10年がほぼ横ばいだったのです。翻って、今を見てみましょう。2000年代に、ニューヨークダウは実は下がっていたのです。そして2010年代に入り、これまで2.3倍です。この1980年からの20年で13.7倍になっていたことを2010年からの20年に当てはめれば、2017年の今から2030年には、さらに6倍上がって、1980年からの20年と同じ上がり幅になるということです。株と言うものはこういうもので、自分の感情で読みを入れると、この上げ幅を取れないという場面も大いにあるということを示唆しています。もし上がりすぎだからと利食いすると、そのあとの上げを指をくわえてみていることになりかねません。長期の視点で常に市場にいることが大事ということです。

OPINION

デフレ脱却の鍵は、値上げする勇氣

物価が上がってきているとはいえ、+0.7%程度。食料品や日用品は依然として値下がり傾向となっています。消費者も値段が安いことに慣れて、スーパーなどでは値上がりした商品をなかなか買おうとしません。ヤマト運輸が宅急便の料金を27年ぶりに大変な騒動の中で上げて、大きなニュースとなったほどです。しかしながら、これからは値上げをしていく勇氣を日本企業はもっと持つべきです。その成功例をお話しましょう。長崎ちゃんぽんでおなじみのリンガーハットです。この会社、一時期ちゃんぽんを一杯280円で売り、さらに大盛りは無料と言う時期があり、私も申し訳ないほど恩恵を被りました。ところが、中国野菜の問題から、すべて国産野菜に切り替え、それを売り物に値上げを始めたわけですが、今では、定番の長崎ちゃんぽんが、なんと一杯620円。以前の値段を考えると、なかなか食べる気になりませんが、リンガーハットの業績は絶好調です。

低い労働生産性を何とか上げなければという課題が日本にはあるわけですが、一方で生産性の構成要素の利益を上げるために、値段を上げるという手段をもっと取るべきです。値段を上げないため賃上げにも踏み切れないでは、縮み志向に他なりません。社員も、賃金が上がればやる気も出てきます。安い給料で仕事をしているから、不正事件も起きてしまうというものです。値上げするとすれば、それだけのいい商品・サービスを提供しようという意欲もわいてきます。日本企業は先行きの展望が明るくなるように、値上げの勇氣を持つことが大事といえるでしょう。

MARKET

(11月末)	(10月末比)
日経平均 22,724.96円	+713.35円 (+3.2%)
NYダウ 24,272.35ドル	+895.11ドル (+3.8%)
米ドル 112.60円	-1.10円 (-1.0%)

今月の言葉:

我々はたとえうまくいなくても、よき行動をするべきと信じていたい。しかし、そのように正しいことをやっていたら、お金が上乘せされて入ってきた。
-チャーリー・マンガー

日本企業で連続する不正をどうしたら防げるか

目を覆いたくなるような、日本の代表的企業の不正の連続です。一体どうなっているのかと、考え込んでしまいます。28日には東レが品質データを改ざんする不正を発表しましたが、なんと問題を把握してから、1年4ヶ月たつての公表とことです。開いた口がふさがりません。以下が9月からこれまで不正が発覚した企業です。

- ・日産自動車 無資格の社員が完成検査(9/29)
- ・神戸製鋼 アルミや銅製品など改ざん(10/8)
- ・SUBARU 無資格の社員が完成検査(10/27)
- ・三菱マテリアル 3子会社の製品改ざん(11/23)
- ・東レ タイヤ補強剤など改ざん(11/28)

いずれも日本を代表する一流企業です。会社のトップが頭を下げる姿を見て、日本の子供たちはどう思うでしょう。けっしていい教育にはなりません。では、どうしてこうなるのか。そこには、いろいろな要因が考えられます。

- ・社内コミュニケーションが薄い。
- ・会社トップの規律への意識が低い。
- ・行動規範が行き届かない。
- ・遵法意識が低い。
- ・勤務の規律が緩くなっている。

この原因を、企業体と言う面から見ると、会社のカルチャーとして内向きになっていて、外の意見を取り入れない、株主はオーナーという感覚で見ずに、仕事は自分たちのために行っているという意識があることが浮かび上がります。こうなると、外の監視の力は弱く、内部の規律がゆるみ、こういう不正が起きる土壌を長い間に醸成していくのです。決してこれらの不正は偶然に連続したのではなく、多くの日本企業に巣食う病巣といってもよいでしょう。

では、このような不正をさせないための根本的な方策はないのでしょうか。対処療法では、再発します。第一に、二度と起させないように、罰則を重くするのは、不正をやったら、大きな代償を払わされるという痛みを感じさせなければなりません。日本の場合、罰則がほとんどないに等しいので、不正を起した会社は、人のうさも75日で、しばらくすれば忘れられるだろうという程度にしか考えていないのです。タカタが米司法省のきびしい制裁で破綻に追い込まれたのと好対照です。

連日会社のトップがお詫び会見をしていますが、彼らの罪の意識は低く、事態の重大性の認識は甘いのです。これこそが問題で、トップが二度と不正は起さないという固い決意を持って再発防止に努めなければ、下が着いてくるはずがありません。また株主はもっと抗議の声を出すべきです。不正を行なった企業の株価は軒並み下落しています。おとなしく事態をながめているべきではないのです。こういう時こそ立ち上がって、株主の存在と力を示すべきです。

ANNOUNCEMENT

拙著新刊！「バフェットの非常識な株主総会」

●連日アマゾンの各ジャンルでランキング1位！

- ・株主総会・取締役会・会社継承部門
- ・世界のマネーメーカー部門

一般・投資読み物部門でも10位の高ランクにいます！ぜひお読みください！

本書の特徴：

- バフェット幼少時の投資経験から現在まで、バフェットの生涯がわかる。
- パークシャー・ハサウェイ株主総会の模様をライブのように紹介。
- 2017年株主総会の有名なQ&Aのうち18例を紹介。
- 100近いバフェットの投資や人生に関わる名言を一挙掲載。
- バフェットの投資哲学や人生の生き方、生活の心構えがわかる。
- これまでよく知られていないバフェットの右腕マンガーについてわかる。
- バフェットの主な投資事例、買収事例のすべてがわかる。
- バフェットの投資、人生、生き方の全貌について広く深くわかる。
- バフェットに大きく影響を与えたグレアム、フィッシャー、マンガーの90に及ぶ名言や投資哲学を一挙掲載。
- バフェットを参考にした投資実績を公開。
- 巻末にバフェット誕生から最近までの年表を掲載。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス株式会社

電話：03-6721-8386

携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072

電子メール：info@bfsc.jp